

プレスリリース

intersolar India 2016

2016年10月19日ー21日 インド・ボンベイ見本市会場

INTER SOLAR INDIA 2016 成功裏に幕を閉じる

2016年11月2日

ムンバイ／プフォルツハイム／フライブルク、2016年10月21日ー来場者12,000人、カンファレンス参加者800人、出展企業240社:10月21日、ソーラー産業のためのインド最大の見本市と会議である第8回 intersolar India が大成功ののちに幕を閉じた。開催場所は、インド・ボンベイ見本市会場だ。来場者数は前回の同イベントより10%多く、出展社数は20%も増えた。インドのソーラー産業市場の前向きな動きは見本市でも顕著であった。ここでは、企業や投資家たちがネットワークのほとんどを築き、数々の契約やコラボレーションが着手された。主催者は、約800人の参加者が122人のスピーカーとインドのソーラー産業について議論を交わしたカンファレンスについても前向きな報告を行った。

インド首相ナレンドラ・モディ氏がエネルギーを最優先することを宣言してから、インド市場は大きく弾みがついている。インドは2022年までに太陽光発電の設備容量100ギガワット(GW)達成を目指している。「インドの新興国内市場ー実態の把握(India's Emerging Domestic Market - A Reality Check)」という名のカンファレンスセッションでは、Mercom Communications社のプリヤダルシニー・サンジャイ氏が、容量は現在8.6GWだと述べた。コンサルタント会社Bridge to India社によると、現在建設中のプロジェクトを含めると容量は23GWだという。つまり、国は意欲的な目標を持っており、インドは急激な変化を遂げているということだ。今年の intersolar India は業界に大きな進展をもたらし、今後踏んでいく段階や、機会、課題などを話し合う絶好のチャンスを提供した。

intersolar India は、ドイツ・シュレスヴィヒ-ホルシュタイン州のエネルギー農業環境農村地域大臣であるロベルト・ハベック氏により正式に幕が開けられた。同氏はインドの再生可能エネルギーの発展を称賛するとともに、業界のプラットフォームとして機能し、主要関係者を呼び集める intersolar India のような展示会は、意欲的な目標の達成に大きく役立っていると強調した。

スマート再生可能エネルギーは、エネルギー世代、ストレージ、グリッド統合、エネルギー管理を組み合わせるもので、見本市で非常に人気のテーマであり、特に見本市フォーラムの活発な議論に拍車をかけた。そのセッション「再生可能エネルギー: マイクログリッドー人里離れた村落地域からグリッド接続された都市の消費者まで電力を供給する」では、専門家がマイクログリッドを通して小さな村に電力を供給した経験を共有した。セッション「スマート再生可能エネルギー: 電気エネルギー貯蔵(ees)ーeesソリューションをインドでけん引するものは何か?」では、業界最新の開発が発表された。

共有ブース HUSUM Wind India

今年、intersolar India にとって初となる国際的に有名な HUSUM Wind との連携は、見本市のゲストを賑わせ大成功となった。来場者たちは、この共有ブースのおかげで風力エネルギーや、そのインド市場への導入についてより詳しく知ることができた。太陽光発電や風力部門で活動するインド企業は多いこともあり、このブースには多くの関心が寄せられた。

intersolar India カンファレンスでの活発な議論

見本市に伴い、会議も、10月19日と20日に並行して開催された。主なテーマは、民間用および産業用の屋上(太陽光発電)システムだ。この「商業&産業屋上システム—インドにおける実地経験(Commercial & Industrial Rooftop Systems – Field Experience in India)」セッションでは、Central Electronics 社の社長兼会長のナリン・シンハル氏が屋上システムは近い将来、グリッドパリティを実現するだろうと説明した。これは重要な段階だ。なぜなら、インドは太陽発電容量 40GW 分の民間用屋上システムの導入を計画しているものの、その現在の容量は 800 メガワットしかないためだ。デリー首都直轄地域電力長官、スケシュ・クマール・ジャイン氏は、「住宅用屋上システム—システム設計とインドでの実地経験(Residential Rooftop Systems – System Design and Field Experience in India)」という名のセッションで、都市が中心的、先駆的役割を担うだろうと話した。同氏曰く、2020年までに、都市で 1GW 分の民間屋上システムが設置される必要があり、それ以上は 2025年までに設置される必要があるという。民間屋上システムの拡大にあたり直面する課題についても議論が行われた。Nexus Energytech 社の社長、アルヴィンド・カランディカル氏は、こうしたシステムの資金調達は、もっと簡単な構造であるべきで、この分野のビジネスモデルはより手厚いサポートを必要としていると述べた。

ees India

2016年、ees(電気エネルギー貯蔵)India が再び intersolar India と並行して開催された。たくさんの来場者が、関連する企業ブースでエネルギー貯蔵分野についての知識を吸収した。このイベントは、intersolar India を完璧に補完するものであった。なぜなら、蓄電はインドの再生可能エネルギーの未来を追求する道のりに欠かせないものだからだ。

intersolar India 2017 は 2017年12月5日から7日にかけて、インド・ムンバイにあるボンベイ見本市会場にて開催される。

intersolar India の詳細情報はこちらから: www.intersolar.in

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーケード虎ノ門 5階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 e-mail: japan@intersolarglobal.com

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語)